会　議　録

１　会議名

令和８年度　第６回金谷区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

〇報告事項（公開）

・地域協議会会長会議について

〇自主的な審議（公開）

・金谷地区振興プラン（仮称）金谷山アソビバ計画親子三代で遊びつくせ！！について

３　開催日時

令和８年９月９日（水）　午後６時３０分から午後７時５０分まで

４　開催場所

金谷地区公民館　集会室１・２

５　傍聴人の数

０人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く）

・委　員：村田会長、長副会長、阿部副会長、淺野委員、大西委員、小竹委員、小林委員、小山委員、白石委員、滝澤委員、星野委員、益田委員、宮越委員、吉野委員

・事務局：南部まちづくりセンター　稲田所長、小池副所長、荒川係長

８　発言の内容

・会議録の確認：吉野委員と淺野委員に依頼

【議題：報告事項　地域協議会会長会議について】

■ 説明

・事務局から、令和８年８月１７日に開催された地域協議会会長会議について報告があった。
・会長会議では、地域自治の推進に向けた今後の方策案について説明が行われ、全２８区の地域協議会から寄せられた意見等が示された。
・新たな補助制度について、「（仮称）協働・共創まちづくり補助金」から「地域にぎわい事業補助金」へ名称変更されたこと、募集期間が令和８年９月１日から１２月２８日までであることが説明された。
・金谷区の配分枠は８５０万円であり、令和８年度の金谷区の地域独自の予算事業規模である約３６０万円と比較して拡充されていることが説明された。
・地域協議会への評価依頼について、年内に地域政策課から依頼を行い、提案事業が出揃う令和９年１月以降に評価作業を実施する予定であることが説明された。
・評価方法や評価基準については現在検討中であり、依頼時に詳細を示す予定であることが説明された。
・地域協議会が補助金事業を評価する根拠について、条例に基づく運用の考え方を整理した追加資料により説明が行われた。
・地域ビジョンについては、令和９年度事業の評価に当たり、各地域で既に策定されている地域活性化の方向性を活用する考え方が示された。
・令和１０年度以降に向けては、各地域協議会に地域ビジョンの作成を依頼し、十分な議論期間を確保しながら検討してもらう予定であることが説明された。

（会長からの補足説明）

・会長会議では多くの意見や質問が出された。市はこれまで、地域自治制度や補助制度の内容について、地域協議会の意見を聴きながら方針を検討してきた。しかし、今回の会議で説明されたことは、地域協議会委員の任期や報酬など、今まで検討してきたことが反映されず、以前の状況に戻ってしまったと感じた。

・補助制度だけ、名前が変わり、地域活動支援事業の時は地域協議会が提案事業の審査を行ってきたが、今度の新しい制度では、地域協議会が提案事業の評価を行うことになった。この新しい補助金制度について、説明を受けて、納得させられたという印象であった。新しい補助金制度は「地域にぎわい事業補助金」という名前になったが、会長会議のときは、まだ名前も決まっていなかった状態で、スピード感のある変更に感じた。こうなった理由としては、私は市長が変わったからだと思っている。

■ 質疑応答

・質問／意見：地域ビジョンの作成について、市は地域協議会に依頼するとしている。しかし、地域ビジョンを作成して、市に意見として提出しても、今回の地域協議会の在り方の検討が元に戻ってしまったように、最終的には市の判断によって内容が変更されるのではないか。この資料を読んでも、なぜ地域協議会の在り方の検討が元に戻ったのか理由が分からない。市長が変わったからで済まされる問題なのであろうか。今、私たちは、金谷山について話し合っているが、この議論が空疎なものにならないか懸念がある。

→回答：他の区の会長から、地域協議会の方針案が元に戻った理由が質問されたが、答弁は曖昧だった。（会長発言）

・質問／意見：金谷山についてのビジョンを作っても、市に提出した結果、ほとんど反映されない場合、市は理由を説明できるのか。本当に虚しくなる。

→回答：地域にぎわい事業補助金については、令和９年度予算に関しては、すでに地域協議会で作成済みの地域活性化の方向性を評価の基準として使っていただく。ビジョンについては、令和１０年度予算に向けて、作成依頼を行うが、地域協議会で作成したビジョンについては、地域政策課として否定するものはないと思っている。なお、市の総合計画とあまりにも乖離するものについては、作成過程で

助言させていただく機会はあるかもしれないので、ご了解いただきたい。（事務局発言）

・質問／意見：地域協議会制度について、合併後２０年が経過し、人口減少の中、見直すべきである。前回の市の方針検討について、公募公選制の見直しなど実績を踏まえての方針転換に期待を持っていた。なぜ、見直しが元に戻ってしまったのか、議員から質問が出ないのかと思う。このままでは、うまくいかない。機会があれば、地域政策課に伝えて欲しい。「市長が変わったため」で済ませてはいけないと思う。

→回答：令和４年度から２年近くかけて、２８区で議論して地域協議会制度見直しの原案ができたのに、２人前の市長の時代に戻ってしまったように感じてしまう。新しい制度について急ピッチで進められているので、そういった気持ちを抱えながらも、金谷区として新しい補助金制度に乗り遅れないように進んでいかなければならない。（会長発言）

【議題：金谷地区振興プラン（仮称）金谷山アソビバ計画 親子三代で遊びつくせ!!】

■ 説明

・事務局から、１０月３日に開催予定の意見交換会について説明があった。
・意見交換会では、金谷地区に関係する団体との意見交換を行うこととし、現在参加団体への出席確認及びアンケート協力依頼をしていることが報告された。
・会長が開会挨拶を行い、地域協議会の取組説明は事務局が担当すること、意見交換は２班に分かれて実施する予定であることが説明された。
・観光施設課から課長、係長、担当者が参加し、参加者と同じ立場で意見交換を行う予定であることが説明された。

■ 質疑応答

・質問／意見：地域協議会委員は、意見交換会当日は準備するものはあるか。

→回答：特にない。

・質問／意見：全体の参加者は３０人近くになるか。

→回答：３０人まではいかないと考える。一部団体は参加が難しいと聞いている。

・質問／意見：アンケートのしめきりはあるのか。

→回答：９月１８日をしめきりとしている。

■説明

・滝澤委員から、金谷区の現地観察結果を踏まえたレポートの説明があった。

・金谷区には歴史資源や自然資源、スポーツ施設など多様な地域資源が存在するものの、それぞれが個別に存在しており、地域としての物語性や一体的な発信が不足しているとの認識が示された。

・既存資源を結び付けたウォーキングコースの設定や、ＱＲコードを活用した情報発信により、来訪者が地域の歴史や文化を知ることができる仕組みづくりについて提案があった。

・大規模な施設整備ではなく、既存資源の見える化や連携による地域活性化を図るべきとの考えが述べられた。

・夜間利用や環境美化対策として、人感センサー付きソーラーライトの設置や、ナイトウォークイベントの可能性について提案があった。

■ 質疑応答

・質問／意見：ＱＲコードを活用した情報発信は有効だと思うが、作成主体や維持管理、費用負担をどのように考えるべきかが課題だ。既存の団体や仕組みを活用しながら進めることが現実的であり、まずは小規模な取組から始めるべきである。

・質問／意見：歴史資源を活用した取組は魅力的である一方、歴史的背景や関係

者の意向に配慮が必要な場合もあるのではないか。歴史に関わる内容の中には公表や活用を望まない関係者もいるため、十分な配慮が必要だ。

・質問／意見：金谷山の全部に取り組んでいくのではなく、ＢＭＸ場周辺から金谷山を知ってもらうための取り組みを進めていくのがいいと思う。

・質問／意見：ボブスレーもあるが、お金をかけないでも、子どもたちや若い世代が興味を持てる仕掛けが必要ではないか。学校との連携や親子向けイベントの実施、遊びの要素を取り入れた施設活用などを検討すべきである。また、史跡や遊歩道、周辺環境の管理主体を明確にし、地域や行政の役割分担を整理するべきである。

・質問／意見：ゴミが落ちているという点に関して、滝寺に心のふるさと道があるが、月に４回ゴミ拾いをやっている。愛の風公園から正善寺の谷のところに以前からゴミが捨てられている。ゴミの有料化に伴ってのことかもしれないが、そういう問題があると感じた。

・質問／意見：ＱＲコードは歴史に興味のある人はいいかもしれない。しかし、私たちの取り組んでいるアソビバ計画という点において、若い人たちは関心が薄いのではないか。例えば、人口芝でソリ遊びができたりすれば、親子で興味を持って来てくれると思う。

・質問／意見：まずは小さいことから取り組んでいくべきだ。意見交換会では、関係団体が集まって情報交換を行うことで連携を深めることができると思う。既存のキャラクターであるレルヒさんの管理法人と連携してアピールできたらいい。

・質問／意見：若い世代が知らないことを、地域協議会委員の方たちが知っていると感じたので、一緒に歩いて教えていただきたいと思った。関係団体の金谷山への思いを出してもらって、できることは何かを考えたい。地域にぎわい事業補助金も活用していけると思うし、多額の予算をつけるのは難しいができることから着手したい。

・質問／意見：地域の魅力を発信するため、ＱＲコードに賛成である。カルタもいいと思ったが、今はＡＩで何でも簡単に作れる。パンフレットなど見える化することが重要だ。関係団体をまとめられるのは、金谷区地域協議会だと思っている。意見交換会はとても大切だ。各団体の考えを聞いて終わりではなく、何か小さなことでも反映できたらよい。

・質問／意見：滝澤委員のレポートをベースに誰が見てもいいと思う文章にまとめればいいと思う。１０月３日の意見交換会で、滝澤委員のレポートを出して、各団体と結び付けられたら良いのではないか。

・質問／意見：ウオーキングのときに動画を撮って、ＳＮＳをあげたら、誰かが見てくれると思う。先日、ある女性タレントが金谷山のボブスレーの動画をＳＮＳであげていた。そういったことをすれば無料でアピールできると思う。

・質問／意見：金谷山は観光というよりは、歴史資源の活用やレクリエーション的な活用が必要だと思うし、そういった意味で発信していくべきだと考える。

・質問／意見：１０月３日の意見交換会の資料はどのようなものを用意するのか。滝澤委員のレポートは良くできているので、それを先に出すと、それが良いか悪いかという話し合いになってしまう。

→回答：今まで地域協議会でどのような意見が出たのかを経過をまとめたものと、観光施設課から提供された金谷山についての資料及び、各団体から提出されたアンケートを集計したものを配布する。

・質問／意見：意見交換会では、まずは各団体の意見や課題を聞くことを優先した方がいい。地域協議会の考えを先に出すと先入観を持たせてしまうことになると思う。（複数意見有り）

■ 協議結果

・滝澤委員のレポートについては、今まで地域協議会で出された意見の一つとして紹介する。
・意見交換会の参加者には、アンケートや各種資料を取りまとめた上で、資料を事前配布する方向で調整する。
・参加団体の活動内容や課題を共有するために、各団体の自己紹介や活動概要を説明してもらい、その後グループに分かれて意見交換を行う方向で進める。
・各団体からの意見を踏まえ、今後の地域振興策や金谷山アソビバ計画の具体化につなげていくことを確認した。

【その他】
・次回の地域協議会：１０月１４日（水）午後６時３０分～
・阿部副会長挨拶

９　問合せ先

総合政策部　地域政策課　南部まちづくりセンター

TEL　：０２５－５２２－８８３１（直通）

E-mail：nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。